



教員不足の解消を目指し、本市独自の丁寧な個別就労相談を実施 市内小中学校で講師12人をはじめ、25人が就労

生駒市教育委員会は、教員不足に対応する新しい取組として市内小中学校での就労を促進する「就労相談会」(以下、相談会)と個別相談会を実施しました。相談会には103人の参加があり、講師、司書教諭、特別支援教育支援員、スクールサポートスタッフ合計25人の就労につながりました(令和5年10月10日現在)。

説明会参加者には、教育委員会事務局の職員が1対1で40分～1時間ほどかけて丁寧な個別相談を行いました。これによって、職務内容の説明や待遇・福利厚生等の勤務条件にとどまらず、参加者それぞれの就労ニーズ、将来設計、就労にあたって不安な点などを聞き取り、市内小中学校それぞれの状況や条件に合わせたマッチングが可能になり25人の就労につながりました。これは、県内の市町村では生駒市だけの取組です。

■取組の背景課題

教員不足は全国的な課題で、令和3年度の文部科学省調査によると全国で2,058人の教員(小・中・高・特別支援学校の合計)が不足しています。

学校現場で欠員が生じた場合は、都道府県の教育委員会に講師登録された名簿の中から条件に応じた人材と面談し、任用しています。本市の小中学校では、令和5年1月末時点で講師が10人不足していました。講師登録はこれまで奈良県教育委員会が進めていましたが、県全体で約70人が不足し、このままでは講師の配置が見込めず、学校経営や学習環境の低下につながりかねない状況でした。

1 教員不足の理由

◇臨時的任用教員等の講師のなり手の減少

- ・人口構造の変化に伴う生産年齢人口の減少と教員希望者の減少
- ・採用倍率の低下を背景に講師の正規教員としての採用が進むことによる講師のなり手の減少
- ・講師登録をせず、教員以外に就職する教員採用試験の不合格者の増加

◇見込み以上の必要教師数の増加

- ・産休・育休取得者数の増加
- ・特別支援学級や通級指導等の児童生徒数の増加
- ・精神疾患による病休や離職者数が高い水準で推移

2 これまでの状況

講師登録が不足している場合の対応は、各学校の裁量に任せられています。管理職の人脈を頼るしかないときもあり、学校間での情報共有はなされていませんでした。

■相談会実績(期間合計、令和5年10月10日現在)

1 相談会時期・場所

- ・令和5年2月22日～3月3日(8日間)、7月25日～30日(オンライン6日間)、8月4日～10日(7日間)
- ・生駒市コミュニティセンター等、市内4か所

- 2 告知方法 広報紙「広報いこまち」やホームページ、各小中学校の「校長だより」
3 相談会参加者 103人
4 講師等登録名簿登録者 95人
5 就労人数

◇常勤講師…6人

◇非常勤講師…6人

◇司書教諭…1人

◇特別支援教育支援員(障害のある子どもたちの介助や学習活動の支援員、教員免許の所持は問わない)…9人

◇スクールサポートスタッフ(教員の事務作業の支援員、教員免許の所持は問わない)…3人

※なお、教員の欠員は産休・育休や病気休暇の取得、離職で生じます。本市の小中学校では、10月16日現在で3人(小学校の常勤講師、中学校国語の常勤講師、中学校数学の非常勤講師)が不足しています。

■就労事例紹介 ※Aさん、Bさん、Cさんは個別取材も可能ですので担当課にご相談ください。

<Aさん(60代女性)の事例/令和5年4月から常勤講師として市内小学校に勤務>

生駒市の小中学校で講師が不足していることを知り、言語聴覚士や塾講師としてのキャリアを活かしたいと考え、就労相談会に参加。学校見学で子どもたちと直接交流したことにより、就労を決意。数十年ぶりとなるフルタイム勤務のチャレンジを家族からも応援されています。

→学校勤務経験がない人の不安を、本市独自の「学校見学」と子どもたちとの交流によって払拭。

<Bさん(40代女性)の事例/令和5年4月から非常勤講師(英語)として市内中学校に勤務>

育児サークルや自宅で地域の子どもたちに英語を教えていた経験を活かしたいと考え、子育てが落ち着いたタイミングで就労相談会に参加して、就労開始。

→当初は自宅近くの小学校で特別支援教育支援員としての勤務を予定されていたが、市内中学校で英語教員の欠員が出たため急遽案内。本人のニーズに応じた市内小中学校間での配置変えが可能になりました。

<Cさん(30代男性)の事例

/令和5年9月から常勤講師(栄養教諭)として市内給食センター・市内中学校に勤務>

転職検討中に就労相談会に参加。勤務地になる給食センターを見学したり、教員から話を聞いたりする機会を通じて、就労を決意。現在、来年の教員採用試験の受験に向けて準備を進めながら勤務されています。

→栄養教諭から管理職になった教員と話をすることで、正規教員となるために必要な勉強や今後のキャリアを具体的に描くことができました。

<Dさん(30代女性)の事例/令和5年4月から特別支援教育支援員として市内小学校に勤務>

就学前のお子さんの育児中であるため、学校で勤務することを将来的な選択肢として相談会に参加。今すぐ就労することは考えていなかったが、週2回1日6時間の条件で特別支援教育支援員として勤務を開始。

→今は子育てを優先したいとの希望でしたが、現在可能な条件の中で学校で働くことを提案しました。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市教育指導課教育政策室(室長 日高)※就労相談会について ☎0743-74-1111(内線 2721)

生駒市教育総務課(課長 山本)※任用制度について ☎0743-74-1111(内線 2650)